

『 歯科口腔保健対策推進計画 中央 』



中央市

平成 2 5 ~ 2 9 年度



*** 目 次 ***

1	はじめに	1
2	計画策定の方針	1
3	計画の期間	1
4	地域の状況		
	(1) 母子保健計画 歯科保健 参照	2
	(2) 国保」レセプトからの疾病統計	2
	生涯を通じた歯科保健対策の概要	4

1 はじめに

国では、昭和3年に6月4日を「ムシ歯予防デー」と定め、古くから歯科衛生思想の啓もう運動は行われていました。

平成元年には、成人歯科保健対策検討会が設置され、80歳で20本以上の歯を保つことを目的とした、8020（ハチマル・ニイマル）運動が提唱され、平成7年度からは総合健康診査の中に歯周疾患検診が導入されるようになり、その後健康増進事業として行われています。

また平成21年からは、ひとくち30回以上噛むことを目標とした「噛ミング30（カミングサンマル）」運動の拡がりにより、8020運動の一層の推進が期待されています。

山梨県では 山梨県医療保健計画の中で 歯科保健医療として、・8020運動の推進 ・母子、学校歯科保健の充実 ・成人歯科保健の充実 ・障害者等への歯科診療及び口腔ケアの充実があげられています。

本市においても、乳幼児期から高齢者期までライフステージを通じて継続的に健康づくりを推進していく中で、歯科・口腔の健康づくりは欠かせないものであり、地域の課題をふまえ、総合的かつ計画的に推進するため、「歯科口腔保健対策推進計画 中央」を策定しました。

2 計画策定の方針

「山梨県医療保健計画 歯科保健医療」との整合性を図りながら、本市における歯科保健対策の総合的、且つ、計画的な推進を図っていきます。

3 計画の期間

本計画の計画期間は平成25年度から29年度までの5年間とします。そして健康づくり推進協議会などにおいて評価・見直しを行っていきます。

4 地域の状況

(1) 母子保健計画 歯科保健 参照

3歳児健診ではう歯罹患率は年々低下しているが、1歳6か月児健診では横ばい状態です。
 幼児のう歯罹患率を減少するよう、歯科保健指導を通し、予防活動・早期治療へと推進していく必要があります。

(2) 国保レセプトからの疾病統計

平成24年5月分のレセプトより、市民の医療の様子を推察することができます。
 どの年代にどんな病気が多いのか、どれだけ医療費が使われているのか知ること、予防や対策の指標となります。

少年期			
5-9歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	呼吸器疾患	131	779,680
2位	消化器系(う歯含む)疾患	68	430,490
3位	感染症	18	205,070
4位	眼疾患	31	143,430

10-19歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	内分泌・栄養・代謝疾患	5	934,820
2位	消化器系(う歯含む)疾患	64	666,360
3位	呼吸器疾患	118	606,160
4位	損傷、中毒その他の外因の影響	26	278,710

青年期			
20-29歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	呼吸器疾患	45	1,326,440
2位	血液及び造血器疾患並びに免疫機構の障害	4	800,790
3位	精神及び行動障害	26	790,860
4位	消化器系(う歯含む)疾患	63	760,060

30-39歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	消化器系(う歯含む)疾患	104	1,773,130
2位	感染症	15	1,478,540
3位	精神障害	44	1,474,070
4位	新生物	18	850,200

中高年期			
40-49歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	神経系疾患	19	4,113,310
2位	精神障害	47	1,778,700
3位	消化器系(う歯含む)疾患	127	1,591,240
4位	腎不全・尿路結石	13	947,770

50-59歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	腎不全・前立腺肥大	17	2,566,950
2位	消化器系(う歯含む)疾患	184	2,465,090
3位	新生物	40	2,363,790
4位	精神障害	49	2,204,610

高齢期			
60-69歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	新生物	182	12,756,220
2位	消化器系(う歯含む)疾患	570	8,381,770
3位	循環器系疾患	530	6,673,000
4位	腎尿路生殖器系疾患	50	6,233,260

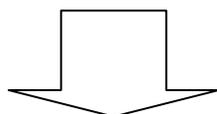
70-74歳			
順位	疾患名	件数	円
1位	循環器系疾患	299	7,570,620
2位	新生物	113	5,420,260
3位	消化器系(う歯含む)疾患	298	4,170,500
4位	腎尿路生殖器系疾患	33	3,101,770

どの年代においても、う歯疾患に係る件数・医療費ともに上位を占めています。

*乳幼児、学童期については、噛むことが特に大切な時期です。う歯対策が成人期の歯の喪失や歯周病に大きく関与します。

*また歯周疾患は歯の喪失原因だけでなく、全身の健康に影響を及ぼします。他の疾患(動脈硬化・糖尿病・心臓病・早期低体重児出産等)の原因になるともいわれています。

- 山梨県歯科医師会 <http://yda.jp>より -



生涯を通じた歯科保健対策が必要

生涯を通じた歯科保健対策の概要

対 象	歯科的特徴	歯科的問題点	歯科保健対策	
			主な具体策	ね ら い
胎児期	歯の形成期	バランスのとれた栄養摂取が必要	母親教室等における歯科保健指導	丈夫な歯をつくるための食生活指導
乳児期	乳前歯の萌出期		乳歯むし歯の予防、歯口清掃の動機づけ	
幼児期 1～3歳	乳臼歯の萌出時期	乳歯むし歯の発生しやすい時期(甘味の不規則摂取等)	1歳6か月児歯科健康診査	乳歯むし歯の予防、歯口清掃の確認、指導、間食等に対する食生活指導
	乳歯列の完成期	乳歯むし歯の急性期	3歳児歯科健康診査 幼児に対する歯科保健指導	乳歯むし歯、不正咬合等の早期発見、早期治療、予防処置
4～5歳	永久歯の萌出開始時期	永久歯むし歯の発生しやすくなる時期	保育所・幼稚園における歯科健康診査	むし歯予防と早期治療(特に永久歯)
心身障害(児)者	歯の形成不全及び唇顎口蓋裂等	広範性のむし歯発生等 咀嚼・発音障害	歯科保健指導の推進、治療機関の紹介	早期治療、歯科保健状況の改善、形態と機能の早期回復
小学校 6歳～	乳歯と永久歯の交換期	永久歯むし歯の多発期	就学時歯科健康診査	永久歯むし歯の予防と早期治療の推進 歯科衛生思想の普及啓発 不正咬合の予防
中学校 12歳～	永久歯列完成期・歯周組織の過敏期	歯ぐきの炎症が始まる時期	定期歯科健康診査と歯科保健教育	
高等学校 15歳～	第3大臼歯萌出	むし歯が放置されやすく歯周疾患の発生が始まる時期		歯科衛生思想の普及啓発 歯周疾患の予防
成人期 20歳～	歯周組織の弱期	歯周疾患の急増	歯周疾患の予防と早期健康診査歯科保健指導	歯科治療の推奨と歯口清掃の徹底
妊産婦 40歳～	生理的变化	永久歯虫歯の増加 歯周疾患の急増	妊産婦歯科健康診査歯科保健指導	
	歯の喪失開始時期	咀嚼機能の低下が始まる時期	健康増進事業における歯の健康教育・健康相談・歯周疾患検診事業所等における歯科健康診査	歯周疾患の早期治療推進 歯の喪失予防
老年期 65歳～ 「寝たきり」	歯の喪失急増期	咀嚼機能の低下(義歯装着者急増)	義歯等に対する歯科保健指導「訪問口腔衛生指導」	咀嚼機能の回復、歯口清掃の徹底(義歯の手入れ等)

(国民衛生の動向 2012/2013)

生涯を通じた歯科保健対策の概要をもとに、途切れることのない歯科・口腔保健サービスを推進していく必要があります。